

# 適正在庫の広場

勝呂隆男

## 第1回 あなたはどちらのサプライチェーンを選びますか？

ツイッター、フェイスブックからも、ご意見・ご質問をお寄せください！この連載は、インターネットと連携した立体的なコミュニケーション広場を目指しています。



[http://twitter.com/inventory\\_apim](http://twitter.com/inventory_apim)

【読者登録方法】上記サイト画面左上の「フォローする」ボタンを押すと読者登録されます。ツイッターが初めての方は右上に表示される「登録する」ボタンを押して操作してください。



<http://facebook.com/API.M.TSC>

【読者登録方法】上記サイト画面上部の「イイネ！」ボタンを押すと読者登録されます。フェイスブックが初めての方は画面上部の「アカウント登録」ボタンを押して操作してください。

適正在庫という考え方が、かつてないほど広がりを見せています。

リーマンショック、東日本大震災と立て続けの経済・サプライチェーン危機を経たことで、最小限必要な在庫＝適正在庫をきちんと持ちたいという意識が、経営者にも現場管理者・技術者にも浸透したようです。

この連載は、そんな適正在庫の考え方を正しく伝えるとともに、生産管理・在庫管理に携わる方々との交流の場を設けたいとの思いで始めました。

十年前、在庫ゼロを理想とすることが常識であった生産管理の世界で、「いやいや、ちゃんと適正在庫をもちましよう」という主張を始めた私としては、昨今の風潮はうれしくあるものの、誤解や無理解に基づく玉石混淆状態を心配しています。適正在庫のキーワードだけを標榜する間違った考え方が広まることで、正しい技術が追いやられる「悪貨が良貨を駆逐する」事態になることを避けたいと思ったのです。

特に、インターネット上に流通する情報に混乱

が見られるようです。今、「適正在庫」というキーワードでgoogle検索をすると300万件近くがヒットします。

これは喜ばしいことなのですが、どうも適正在庫の考え方を取り違えていたり、売らんかな主義で言葉を並べただけのところも多くあるようです。そこで、適正在庫の考え方を正しく世の中に伝える場をつくろうと思いつき、さらに多くの方々の疑問に答える機会を設けようと考えたわけです。

「適正在庫」という言葉自体は昔からあり、特に商業関係では一般的に使われていました。私が生産管理の世界で初めてこの言葉を使ったのは、2000年のことですが、その当時、モノづくりの世界では「在庫は悪」であり、「在庫ゼロ」が生産管理の理想とされていました。そんな環境で「適正在庫」を言い出したのですから、相当な軋轢が生じたのを覚えています。

しかし、2003年に出版した「適正在庫の考え方・求め方」（日刊工業新聞社刊）に続く適正在庫三部作がベストセラーになるなど、その後少しずつ

在庫ゼロ思想

適正在庫思想



つ適正在庫の考え方は市民権を得るようになりました。

2000年当時に、私が掲げた適正在庫の定義は次の通りです。

【適正在庫の定義】

欠品を防止しながらぎりぎりまで在庫を減らせる限界値

できるだけ在庫を減らしたいのはやまやまだけれども、必要最小限の量はちゃんと持とうよという考え方です。

そして、そのような値がわかればいいね、ではなく理論研究を踏まえて適正在庫を計算する技術も開発したのです。その技術を実装したソフトウェアは、「適正在庫算出システム APIM」として市販されるようになり、今では誰でも適正在庫を知ることができるようになりました。

適正在庫の考え方を世に広め始めた当初、よく反論されたのが「適正在庫の値はゼロである」という主張でした。これに対して私は明確に「No!」と答えてきました。なぜなら在庫ゼロは決して実現することのできない値だからです。そのことを理解せずに「トヨタではできている」と勘違いして本当に実現しようとすると、多くの場

合、取引先や顧客に不当に在庫負担を強いることになってしまうからです。

適正在庫を知ることができなかった時代には、ゼロを目指して在庫削減に努力しようという主張はそれなりに意味をもつものでしたが、APIMの登場により誰でも簡単に自社の適正在庫を知ることができるようになったのですから、在庫ゼロ思想は害悪以外のなものでもありません。

在庫ゼロ思想は、足を鎖で縛りつけたサプライチェーン。適正在庫思想は、メンバーが手を組み合うサプライチェーンなのです。

この連載は、読者の皆さんと双方向で作っていきたいと思っています。適正在庫をキーに皆で活発に情報・意見交換や議論ができればいいなと考えています。編集部経由でも、冒頭のツイッター、フェイスブックを通してでも結構ですので、ご意見・ご質問などどんどんお寄せください。次回以降は、皆様からお寄せいただいたご質問を取り上げる<Q&A コーナー>を設ける予定です。

筆者：すぐろ たかお (株)TSC コンサルティング  
代表取締役社長  
所在地：〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町11-1-304  
TEL：045-574-4532